

月刊 登記情報

621

2013年8月号
53巻/8号

分かりやすい誌面で登記・供託関連実務をサポート

法窓一言 成年後見制度利用促進法の早期制定を求めて
新井 誠

共生社会とADR 上原裕之

新連載 権利登記実務研究会報告

〔第1回〕居住用不動産における配偶者の保護に関する考察 石川 亮

シリーズ対談 土地家屋調査士と境界確定の技法

〔第5回〕最小二乗法の活用(3) 小野孝治/寶金敏明

太陽光発電事業と登記実務

～担保を中心として～ 鈴木龍介/小野絵里

債権法改正と司法書士実務への影響 〔第4回〕意思表示・約款 赤松 茂

〔ダイジェスト版〕商業登記法コンメンタール(7) 青山 修

司法書士入門～いまさら聞けない登記実務～

第8回 相続登記(2) 初瀬智彦/小口文隆/浦田 融

BOOK REVIEW 山野目章夫 編/著

①「不動産登記重要先例集」②「不動産登記法概論 登記先例のプロムナード」

【評者】鈴木龍介

登記実務からの考察

〔権利登記〕相続分なきことの確認請求訴訟における遺産分割に関する和解と相続登記の注意点 大越一毅

裁判実務フォーラム

坂道をゆく 〔第8回〕妻恋坂 小林昭彦

わたしの事務所紹介 人との関わり合いを大切にしながら 丹治聖代

最近の土地境界確定判決を散策する(第22回) 山口智啓

〔第12回〕実践コンプライアンス入門講座 ～社外監査役の権限・責任 川村一博

供託ねっとー実務から学ぶ供託ー(第34回)

供託金の払渡請求に必要な印鑑証明書・資格証明書・代理権限証書について 堀川浩之介

逐条解説不動産登記事務取扱手続準則(23) 河本哲志

商業登記掲示板/成年後見掲示板

通達・回答 その他

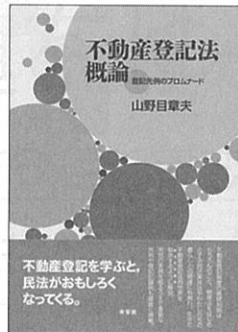
○平24・12・28民商第3619号

後見登記

○平24・12・14民一第3500号

判決速報 ●1 家庭裁判所から選任された成年後見人が成年被後見人所有の財物を横領した場合と刑法244条1項の準用の有無

2 家庭裁判所から選任された成年後見人が成年被後見人所有の財物を横領した場合に成年後見人と成年被後見人との間の親族関係を量刑上酌むべき事情として考慮することの当否(最二小決平24・10・9)



山野目章夫 編／著

① 「不動産登記重要先例集」

② 「不動産登記法概論

登記先例のプロムナード」

不動産登記“愛”にあふれる2冊！

【評者】鈴木 龍介

最近、外国人（法人）が、いわゆる投資として日本の不動産を購入するという案件に何件か携わる中で、彼らが日本の不動産に投資する魅力の1つとして、整備された不動産登記制度を挙げたことが印象的でした。もう少し具体的に言いますと、日本の不動産登記の制度は、物件ごとに権利関係が整理されていて非常にわかりやすく、制度の運用が安定的でシステマチックに行われており、そして何よりも不動産登記を信用して取引をすれば9分9厘問題が起らないといったようなコメントを口にしていました。

日本の不動産登記制度が高く評価される背景としては、緻密な制度設計を可能にする法令、法務局・登記官と司法書士・土地家屋調査士といった不動産登記に関与する人たちの現場での不断努力とともに、「登記先例」が果す役割が大きいといえるのではないのでしょうか。

登記先例は、一種の行政解釈であって法令ではカバーしきれない実務の指針として必要不可欠な存在であり、仮に登記先例を把握することなく司法書士や土地家屋調査士が業務を行うことは、無茶・無理・無謀といえます。

このたび、山野目章夫氏を編著者とする不動産登記に関する2冊の書籍が相次いで上梓されましたが、この2冊に共通するキーワードが登記先例です。登記先例は、不動産登記制度が創設された明治時代から現在に至るまで膨大な数のものが発出されていますが、各種の法令改正や社会・経済生活の変化により、その意義が喪失したり、変容しているものも少なくありませ

ん。これらを整理した上で、正確に内容・趣旨を理解しておくことは、実務家のミッションであるといえますが、口で言うほど簡単な作業ではありません。

書籍①では登記先例の取捨選択・整理がなされ、書籍②では登記先例を踏まえつつ概論とは思えぬ詳細かつ丁寧な説明がなされ、まさに私たち実務家を強力にサポートしてくれる2冊です。

編著者は、第一線で活躍されている民法学者であり、特に不動産登記に関する知見・造詣は卓越されたものがあります。加えて、常に私たち登記実務家の現場の声にも耳を傾けていただき、実務を踏まえた貴重な示唆を頂戴することも少なくありません。そのような編著者の手によるこの2冊は、まさに不動産登記“愛”にあふれたものといってよいのではないのでしょうか（編著者に「こそばゆい」と叱られそうですが・・・）。

私たち司法書士の業務の範囲は、一昔前と比較して格段に拡大したものの、不動産登記が中核の業務であるということについては、異論のないところだと思います。司法書士が不動産登記業務に取り組む上で、座右に置いて活用すべき2冊として紹介・推薦させていただきます。（①有斐閣、A5判434頁・定価3,150円（税込））

（②有斐閣、A5判354頁・定価2,835円（税込））

（評者は司法書士／司法書士法人鈴木事務所代表社員）